

## 「隠岐世界ジオパークに関する研究大賞」の審査について

隠岐世界ジオパーク推進協議会では、平成26年11月より隠岐の自然、文化、生物、地域づくり、ジオパークの活用などについての研究レポートを募集しました。

応募のあったものうち「ジオパークの投資対効果」、「隠岐の瓦屋根景観」、「布施の山祭り」の3件の論文について公開プレゼンテーションによる最終審査を行い、大賞を決定することになりました。

一般の方にも公開しますので、興味のある方は是非ご参加下さい。

日時… 3月20日(金)

13時～15時30分

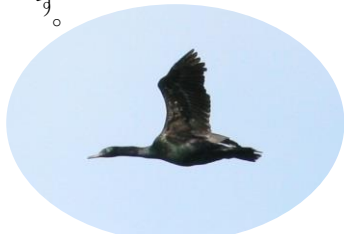
場所… 隠岐支庁6階大会議室

## 海鳥の調査をしています！

西ノ島町観光協会では観光素材の発掘のため、海鳥の調査を行っています。実は冬から春にかけて隠岐周辺の海では様々な海鳥が見られます。ペンギンのようなウミスズメの間、くちばしの長いウの仲間、その中には天然記念物や絶滅危惧種もいます。

一回目の調査は比較的波が静かになった2月15日に、西ノ島北東の海上で実施しました。船上では甲板に仁王立ち、揺れと寒さに耐えながら目を皿のようにして海をみつめ、波間に見え隠れする鳥の影を探します。何も出ない時はツライですが、一度海鳥を見つけるとツラさも吹き飛びます。結果は4種類、30羽以上の海鳥を見つけることができました。調査はあと三、四回行う予定です。

海鳥は魅力的な生き物で、観光に利用している地域もあります。でも、海鳥について何も知らないまま見る人が押し寄せる、その生活を脅かすことにもなりかねません。調査で分かったことを充分検討して、海鳥を守りながら活用する観光を考えていきたいと思えます。



絶滅危惧種のヒメウ



調査の様子

## 昔から人気のある隠岐のアワビ

隠岐の島町の蔵田地区では、「天然アワビの食べ放題」というイベントが2、3月にあります。今年で13回目となり、1万円のアワビ食べ放題は、広島など県外から申し込みもあり、すぐにいっぱいとなってしまいうほど人気です。

アワビは、隠岐の歴史に深く関わりがあります。奈良時代から隠岐の干しアワビは超高級品で、天皇の即位式の供え物や高級役人のボーナスとして支給されていました。「隠岐アワビ」として他の地域のものとは区別して扱われていました。生態も面白く、こうした機会に協議会はリーフレットで参加者に紹介するなどの協力をしていきたいと思えます。

## レンジャー通信

### 「国立公園のこれからの考える会(第3回)を開催しました」

2月10日(火)に、黒木公民館で15名にお集まり頂き、海洋生物の専門家(公益財団法人黒潮生物研究所所長 中地シュウ氏)から、高知県土佐清水市で行われている住民主体の環境保全活動を紹介いただいたあと、隠岐の海を活かしたどのような取り組みができるかを話し合いました。参加者からは、楽しみながら調査をすれば裾野が広がる、清掃イベントとして、カヤックなどと組み合わせた取組をしてはどうかという意見がよせられました。



## 島の春の幕開けを楽しむ 佐々木家住宅×神楽のヨラボ

### 隠岐の島町

佐々木家住宅の3月からの開館にあわせ「佐々木家住宅 東郷・今津神楽公演」が、開催されます。

佐々木家住宅は、天保7年（1836年）に建てられた、杉皮葺き石置き屋根が特徴の「隠岐造り民家」で、平成4年に国の重要文化財に指定されています。

また、東郷神楽は、周吉（すき）神楽のひとつで、町の無形民俗文化財に指定されており、今津神楽もその流れを汲むものです。

早春の小鳥たちがさえずる美しい環境の中、隠岐を代表する古民家で行われる神楽公演をゆったりと楽しんでみてはいかがでしょうか。



日時：3月22日(日)午後1時30分開演  
※当日の入館料は無料です。  
■お問い合わせ先：  
隠岐の島町教育委員会(電話2-2126)

## 「グローバルに活躍する ナマコ」

### 海士町

シマメの季節がひと段落して春の足音が聞こえ始めるこの時期は、ナマコ漁の最盛期を迎えます。海水温は気温に2〜3カ月遅れて変化していくと言われている時期です。そうした海底で産卵のためにひっそりと活動しているナマコは人の暮らしに欠かせない存在です。ナマコの活躍は漁師さんの稼ぎや我々の食卓だけではありません。加工したナマコは中国や香港に輸出されグローバルに活躍しています。またそれだけに留まらず、ナマコは海底に降り積もった有機物を無機化する役割も担っています。その無機物を養分に海藻が育ち、新たな命を育み、人の営みを支えています。



## 地中の声の主 西ノ島町

この時期、山の溪流沿いを歩いていると、地面や岩壁から「ゴゴッ、ゴゴッ」としゃがれた声が聞こえることがあります。声の主を探そうといくら目を凝らしても見えません……。それもそのはず、声の主は地面の下や岩壁の穴の中にいるのです。その正体は「オキタゴガエル」。隠岐諸島の島後と西ノ島のみで確認されている珍しいカエルです。その生態も珍しく、地下水などに産卵し、卵もオタマジャクシも白く、カエルになるまで餌を食べずにお腹の卵黄だけで成長します。2、3月は産卵の季節。姿はなかなか見ることはいませんが、産卵場所付近ではよく鳴いているようです。オキタゴガエルは健全な森と川があつてこそ生存できます。この希少なカエルの声がいっつまでも聞こえるよう、森や川を大切にしていきたいですね。



## 知夫里島ツアーガイド 講習会 知夫村

ツアーガイドのいない知夫里島では、海士町の隠岐しぜんむらの深谷治さんを講師に、「ツアーガイド講習会」を開きました。

第1回目は、「ガイドをするための基礎知識」について、ガイドの心得と案内する場所について話し合い、8名が参加しました。

第2回目は「ガイドツアー体験」では、前回、参加者が提案した場所を講師が説明するのを見て、学びました。



第1回目

第3回目は参加者が実際にガイドとなって現地を説明する予定です。



第2回目

隠岐世界ジオパーク新聞へのご質問、ご意見、ご要望は下記までお寄せください。

隠岐世界ジオパーク推進協議会事務局

〒685-8601 隠岐郡隠岐の島町港町塩口2 4 番地  
(隠岐支庁3階 県民局内)

メール info@oki-geopark.jp

☎ (08512) 2-9636

FAX (08512) 2-9626

